

勝林寺夕報

本師源空明仏教
憇愍善惡凡夫人
眞宗教証興片州
選択本願弘惠世

源空上人智惠すぐれ
おろかなるものあわれみて
淨土真宗おとしては
本願念佛ひろめます。

「人になる」ということはなみたいていのことではありません。

この世に生まれてきさえすれば「人である」のでしようが、その人である私が「人と生れさせたいだいてもつたないことよ」とよろこべる人になるということは宝くじを当てるよりもむずかしいことです。
如来さまのおいのちのなかに生れかわらせていたくために人と生れさせていたのだとということを知るにはなみたいていことではありません。
「はかり知れない昔からまよいと罪業と苦しんでしまして私たちのような罪業の者が。
この世界をさまざまよいめぐってきた私。かつて一度もこの迷いと苦悩から超え出る教えにあいませなんだ。あゝ思えばもつたないこと。如来さまのご本願をお示しくださったこの源空上人法然さまに、もしお会いすることがなかつたならば、せつから人に生れながら今度も一大事をとりおとすところであつた。」（「高僧和讃」の意）
親鸞さまはこのように源空上人（法然）さまを仰いでおられるのです。

源空上人（法然）さまは平安時代の末期、社会が混乱している時期に、今の岡山県の久米郡に、地方官僚武士の子として生まれました。九歳のとき父は人のうらみをかつて殺害されました。「うらみはうらみを生む。うらみあい憎しみあつて生きる世界を超える仏法を求めなさい」という父の遺言に従つてただちに出家得度をし十五歳で京都まで出かけて仏教のあらゆる部門の学問をなさい

ました。同時に法然さまは早くから黒谷の觀空（くろや）上人のもとで、いわゆる「念仏聖」として凡夫が仏になるための「念仏」の実践にはげまれました。

仏教にはいろいろな宗派があります。仏になるための道すじも多く示されています。法然さまは大藏經へお詣巡さまの教えのすべてを五回も読みつくし、あらゆる宗派の学問を究めつくされました。

法然さまは、智惠すぐれ徳高い聖人たちであつてはじめてたどれる道です。それを「聖道門」といいます。しかしこれらの道は、いくらその教えは立派なものであつても、今の時代にはもうその教えを実際に実践できる人もいませんし、従つてその教えによつて仏になるなどといふことはとうていありえないことなのです。

法然さまは、その凡夫人のための真実の宗教、凡夫人が救われる教えと行く道と凡夫人のさとり（証）とをさがし求め、そしてはじめてこの日本の国（片州）に知らしひろめてくださつたのです。

法然さまがおひろめくださった仏教のなかの真の仏教とは何でしようか。これこそ私のような悪凡夫人が救われる道と示してくださいたのは何だつたのでしょうか。
こんな時代こんな人々にもできる行とそのさとりがあるといわれるものは何でしようか。

それは「南無阿彌陀仏」のお念佛ひとつです。

少しおひろめくとも知れませんが法然さまが「選択本願念佛集」という著書のなかに出されると結論をあげてみましよう。

「それ、すみやかに生死を離れてとおもわば、二種の勝法のうちしばらく聖道門をさしあいて、淨土門に入れ。淨土門に入らんとおもわば、しばらくもろもろの雑行をなげうつて選んで正行に帰すべし。正行を修せんとおもわば正・勝二

お彼岸会（おひがんえ）は、いちばん仙教らしい行事です。

九月のこよみ

お陽さまがちようど東西に沈んで、どちらにもいざれにも片寄らない

うのに最もふさわしい季節であるからです。

九月二十六日（水）

お彼岸会にお参りして、平生の私めさす「中道」という生きかたを想像さす。

私のお念仏（六）

宮島千秋



現代社会の文明の発達ぶりは非常に高度なもので驚くばかりでございます。文明が高度な発達をすると、同時にその危険度も高くなつてゐるはずですが、私はその高度で安全な文明社会に恵まれてくらさせていたいております。危ないことだと思いますし、また反面もつたいたいことをだと思います。

阿弥陀さまは、なにやらこの私に「危険度の高いおまえであり時代だから充分こゝろしなさいよ」と言い聞かせつゝけてくださつてゐるようになります。

第一こゝまで發達するその陰には、数多くの恐ろしい悲しい犠牲のあつたことを忘れるとはできません。犠牲になられたかたの数多くの教訓によつて現在の文明社会に恵まれてゐると思います。

それでは今の人間（私）のこゝろはどうでしょか。まず欲望がますます高く大きくなつています。大きなことをして人にぬきん出したいという競争心の裏に恐ろしい悲劇のまつてゐることを忘れております。

生活環境はどうでしようか。

すべて機械化し組織化していく社会だけに、ますます人の「こゝろ」が大切に思われる時代です。これから時代こそ人の「こゝろ」を育てる心を豊かにすること。一人一人のこゝろに、しっかりとした依りどころをもつことが大切なことです。いろいろあれこれ思つてはおりますが、私自身実際には善い行ないをして立派に生きていくなどということはとうていできるはずのない私です。

いつもフラフラと時の流れにながされ、残間いことばかり行ない考えている私です。それが今このように皆様がたのお世話になりながら細々でも私なりに安心してくらさせていたゞくことがいちばんもつたいたいことでござります。

朝日をさまして、朝の行事をすませてそとへ出る、「おはようございます」と笑顔であります。つくしてくださる方々。たとえ浅間しい私であつても笑顔で迎えてくださるかた達。毎日うむことなくこの私を照してくださるお陽さまの光にしあわせを深く感じます。

いくら文明が発達しても、機械が発達しても、それだけでは思ひれない阿弥陀如来さまのお慈悲のなかの私なのだなあと、一日の仕事を終えたとき合掌させていただく私でございます。

南無阿弥陀仏。

いくら文明に沿するかげに涙あり

但丹仏社研修会開く

尊き弥陀の教えのとして

八月二十六日（日）、勝林寺において但馬丹波地区の佛教社員会員二百人が集まつて年度定例の研修会を開いた。講師は出石正福寺山崎一朗先生。「残されている封建制」というテーマで真宗念佛者の生きかたとしての同朋運動を教えられた。勝

林寺仏社役員会員は会場当番として終始運営全般に力を尽し集会の研修員より感謝された。

第五期「連研」

研修生を募集中

二年間六日の連続研修を「連研」と略称します。昭和五十二年から現在まで各寺から男女四名の研修生を出して研修をしてきました。いま第四期・

宗教・仏教・真宗とは何かを学びます。勤行・作法なども話し合います。いま勝林寺からは男女各三名が出て研修中。この期は九月三十日の研修をもつて修業します。次期「連研」（明年五月開始）の研修生を募集します。なるべく六十歳まで。

第十八回

「子ども研修会」ありがとうございます

八月二十日・二十一日、第十八回「勝林寺

子ども一泊研修会」が開かれました。子ども

二十一年、おかあさん十八人・たのしく遊

びながら「ほとけの子ども」を勉強しまし

た。五年連続皆勤の次の人に記念品が贈入

会長から贈られました。

横山寿美さん

平野香穂さん

孫たちと参加してくださいました方から次のお

はがきをいただきました。



「かぼちゃジャム」

作つてみませんか

◇材料

砂糖 400g かぼちゃ / Kg はちみ

フ 2分 / カップ レモン 2分 / 個

レモンエッセンス 4、5滴

◇作り方

(1)カボチャは皮をむき適当な大きさに切り蒸す。
(2)蒸し上ったカボチャを、レンゲでつぶがなくなるまで弱火にかけ、こげつかないように

たえずかきませ、砂糖は二回に分けて入れ、ハチミツを入れてジャム状になるまで煮つめ

(3)カボチャを弱火にかけ、こげつかないように

のしばりじるを入れて出来上り。

(4)火を止める直前にレモンエッセンス、レモン

のひだをまたひとつやすことができたであります。

こうしたすばらしい会を十八回も重ねられお世話くださいました。

話くださいました勝林寺仏婦の皆々様に感謝申しあげお礼申しあげます。

第一回のとき娘が参加させていただき、その後第一回のとき娘が参加させていただいたク

坊守様からマチ針とモールで教えていたた

まものであります。仏様に掌を合わせることが

ありました。仏様に掌を合わせて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

ス玉を今だに大切にもつております。学校とはまことに別な心の豊かさをさずかつたのも本研修会のた

まのものであります。仏様に掌を合わせて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

外保たちを多勢つれてはじめて参加させていたた

まのものであります。仏様に掌を合わせて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

ことでござります。

外保たちを多勢つれてはじめて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

ことでござります。

外保たちを多勢つれてはじめて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

ことでござります。

外保たちを多勢つれてはじめて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

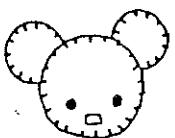
ことでござります。

外保たちを多勢つれてはじめて参加させていたた

まのものであります。自然に日々の生活となつてまいりました。有難い

ことでござります。

御礼まで



宮島幸子

かしこ